



地域がん診療連携拠点病院 <川崎市立井田病院からのお知らせ>

い だ や ま

第80号

井田山

基本理念「井田病院は、自治体病院として、市民から信頼され、

市民が安心してかけられる病院づくりを目指します。」

当院ホームページ・X(旧Twitter)を
ご覧ください♪

★紹介受診重点医療機関になりました

当院は、令和5年10月1日に神奈川県から「紹介受診重点医療機関」として公表されました。

「紹介受診重点医療機関」とは、クリニック（かかりつけ医）等からの紹介状を持って受診いただくことに重点をおいた医療機関で、手術・処置や化学療法等を必要とする外来、放射線治療等の高額な医療機器・設備を必要とする外来などを行っています。

医療機関どうしの役割分担により、患者さんが適切な検査や治療をよりスムーズに受けられるようになり、混雑緩和などの効果が期待されます。

当院を受診される際は、まずは地域のクリニック（かかりつけ医）等からの紹介状をご持参ください。

紹介状のありなしにかかわらず受診は可能ですが、紹介状がなく来院された場合は、一部負担金（3割負担等）とは別の選定療養費が原則必要となります。

患者さんにおかれましては、何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

文責：医事課



★多摩川梨を提供しました



食養科は、令和5年8月28日（月）に今年度第2回目となる市内産農作物の提供を行いました。今回は「多摩川梨」を提供しました。多摩川梨は川崎市をはじめ多摩川流域で栽培されている梨の総称で、当日は果汁たっぷり、みずみずしい食感が特徴の豊水を提供しました。

多摩川梨といえば川崎発祥の長十郎が有名ですが現在の栽培量は少なくなっています。記録的猛暑で生育状況が心配でしたが、「甘くておいしかった」「良い取り組みだと思う」など多くの感想をいただきました。

今後も地産地消の取り組みを継続し、おいしく安全な食事の提供に努めていきたいと思
います。

文責：食養科 亀山



医療機関では、引き続きマスクの着用にご協力をお願いいたします。

★新しい血管造影装置が入りました

井田病院では令和5年8月から新しい血管造影装置が稼働しています。血管造影装置では外科の手術のように体を切らず、体の中の血管や腫瘍の治療を行うため患者さんの負担はとても少ないです。

当院では主に次のような検査、治療を行っています。

心臓カテーテル検査、治療

手首や足の付け根からカテーテルという細い管を血管に入れ、心臓の血管の細さを調べます。細くなった血管を風船のようなもので広げ、狭心症や心筋梗塞などの治療も行うことができます。

TACE（肝動脈化学塞栓療法）

足の付け根などからカテーテルを挿入し、肝臓内の腫瘍に到達する血管までカテーテルを進めます。カテーテルから腫瘍に栄養を送っている血管に抗癌剤などを入れ、動脈の血流を遮断し、腫瘍細胞を壊死させる治療を行います。

PTA

全身の細くなった血管や、途中で詰まってしまった血管に対してカテーテルを入れ、風船のようなもので膨らませることで血管を広げ血液の流れを回復させる治療を行います。

文責：放射線診断科 小野



★院内コンサート ～モネ・マリンバデュオコンサート～



令和5年10月4日（水）に、当院1階玄関ホールでMONET marimba duo(モネ マリンバデュオ)によるマリンバコンサートが開催されました。

このコンサートは、「地域医療と芸術の橋渡し」を掲げるTSUKASA訪問看護ステーションの協力で実現することができました。会場に集まった多くの患者さん達は、演奏曲の情景を思い浮かべながら優しいマリンバの音色を楽しんでいました。コンサートが終わってからも、その余韻を話す患者さんの笑顔がとても印象的でした。

モネ・マリンバデュオの皆様、TSUKASA訪問看護ステーションの皆様ありがとうございました。

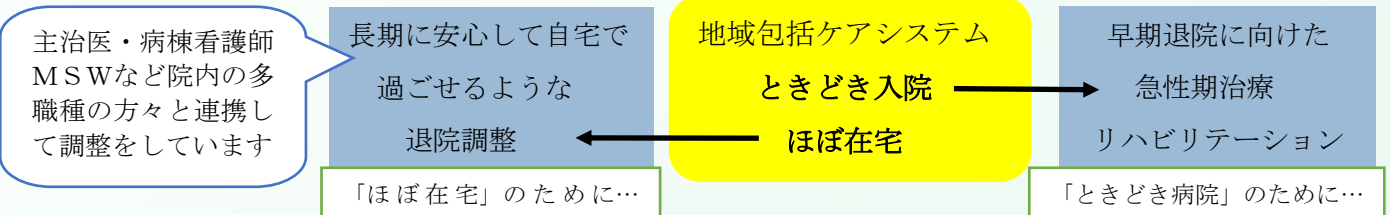
文責：看護部 三好

★退院調整看護師について～かえるをかなえるために～

高齢化社会を迎え、2025年を目途に、高齢者の尊厳保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築が進められています。地域包括ケアシステムの話の中でたびたび使われる「ときどき入院、ほぼ在宅」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。「ときどき入院」のために病院は、患者さんが住み慣れた地域に早期に帰れるよう、迅速な治療やリハビリテーションが求められます。「ほぼ在宅」では、退院後の生活を見据え、患者さんの個性に合わせたきめ細やかな退院調整が必要となります。この調整を担っているのが退院調整看護師です。



～かえるをかなえる～を表現した
退院調整部門のロゴマークです



退院支援看護師

地域医療部では、8名の退院調整看護師が、主に自宅に退院する方の調整を行っています。退院支援における看護師の役割は、看護の専門性をもって患者の心身ともに、生活をみる力を活用して患者家族の意思決定支援を行うことです。退院後の生活を想像し、困難な状況を想定しながら、困ることがないように、そして、少しでも安心して自宅で過ごすことができるように考え調整をしています。退院に不安を抱えたり、自宅の環境の確認が必要と判断した時には、退院前訪問を活用し、自宅への訪問も積極的に行っています。調整の過程で、悩むことも多くありますが、同じ部署の仲間と意見交換をしながら、患者家族の笑顔のために日々奮闘しています。

文責：地域医療部 退院調整看護師 中里

★橘ふるさと祭りに参加しました

令和5年8月6日（日）に、川崎市民プラザ（高津区新作）で行われた「橘ふるさと祭り」に参加しました。

4年ぶりの開催ということで、お祭りは大盛況でした。井田病院の健康相談コーナーでは、中高年の方を中心に66名の来場者がありました。

内科奥医師の健康相談、栄養士による食事相談、看護師の血圧測定、検査技師による握力測定を実施し、井田病院で行っている健診などもアピールさせていただきました。

皆様の健康をお支えする一助となれましたら幸いです。

文責：医事課
地域医療部



★災害訓練に参加しました



下澤医師(緩和ケア内科)、吉田看護師、中川看護師、川村業務調整員、三嶽業務調整員の5名チームで参加しました。



熊本空港DMAT参集拠点本部には神奈川県と千葉県のDMATが参集していました。団体カウンターを受付場所として利用

川崎市立井田病院は災害拠点病院でDMAT (Disaster Medical Assistance Team : 災害派遣医療チーム) 指定医療機関です。井田病院DMATは総勢10名のDMAT隊員が在籍しており、災害時、迅速に活動できるよう訓練に参加し技能維持をしています。今回は、令和5年9月30日(土)に九州で行われた大規模地震時医療活動訓練に参加してきましたのでご報告します。

本訓練は政府総合防災訓練と呼ばれ、国および内閣府が主導で、年に1度の全国規模で行われるDMATの訓練です。災害の想定は南海トラフ地震における西日本の地震と津波により、宮崎県や大分県、四国4県が津波で甚大な被害を受けたというものです。全国からDMATは341隊、約1600人参加しました。

井田病院DMATは発災後、神奈川県からの派遣指示により、熊本空港に設置されたDMAT参集拠点本部に民間航空機で被災隣県に移動しました。熊本空港からは被災地宮崎県への派遣指示があり、津波による被害があった病院の本部運営支援が任務となりました。

DMATは活動で必要となる医療資器材はすべて専用のバックに収納し自ら現地へ運搬します。その活動で必要となる車両はレンタカーを手配します。また災害時には固定電話や携帯電話が不通であることも考えられるため衛星携帯電話を配備しています。

来年は首都圏が被災地となり本訓練が実施されます。井田病院も遠隔地から派遣されるDMAT受援体制を整え、実災害に備えていきます。

文責：放射線診断科 三嶽



派遣指示で宮崎県内の病院の本部運営支援を行いました。



固定電話や携帯電話が不通時でも、衛星携帯電話で通信を行います。



発行責任者 田中 良典
川崎市中原区井田2-27-1

編集 川崎市立井田病院 ホームページ・広報委員会
電話 044-766-2188 (代表)